

【いなぐま通信】

特発性大腿骨頭壊死

今回は特発性大腿骨頭壊死についてご紹介します。これは人体で1番大きな球状の関節である股関節を構成する大腿骨頭の一部が、血流の低下により壊死に陥った状態です。やや男性に多く、30～50歳代に好発します。

【症状】

骨壊死が発生しただけの時点では自覚症状は少なく、骨壊死に陥った部分が潰れて大腿骨頭に圧潰が生じたときに出現します。このため症状が出るまでには数ヶ月から数年の時間差があります。自覚症状としては急に生じる股関節部痛が特徴的で腰痛、膝痛、臀部痛が初発する場合もあるので注意が必要です。

【治療法】

保存療法: 壊死の大きさや位置から予後が良いと判断できる症例や症状がない場合に適応されます。杖などによる免荷が基本となり生活指導を行い、疼痛に対しては鎮痛消炎剤の投与などで対処します。

手術療法: 自覚症状があり、圧潰の進行が予想されるときは手術適応される場合があります。

上記の症状で説明したように股関節だけに痛みが出るわけではなく、腰や膝、臀部から症状が現れる場合もありますので少しでも気になる事があれば、早めにお近くの医療機関へ受診する事をお勧めします。

バックナンバー

[2017/12号 肺炎球菌感染症](#)

[2017/11号 鷺足炎](#)

[2017/10号 線維筋痛症](#)

[2018/9号 特発性大腿骨頭壊死](#)

[2018/8号 肘内障](#)

[2018/7号 下肢静脈瘤](#)

[2018/6号 肘部管症候群](#)

[2018/5号 虫垂炎\(盲腸\)](#)

[2018/4号 副鼻腔炎\(蓄膿症\)](#)

[2018/3号 足根洞症候群](#)

[2018/2号 ものもらい](#)

[2018/1号 ド・ケルバン病](#)

[過去のものはこちらから](#)

